



いのち せんべつ  
「命の選別」

かいぎょうむしっこうりじ とみたただかず  
ちいろば会業務執行理事 富田忠一

「意思疎通のとれない重度障害者は不幸だ」と決めつけ、「障害者は生きていてもしかたない」と45人の入所者を殺傷した「津久井やまゆり園事件」の被告 植松聖に3月16日死刑判決が下されました。

私は、この裁判で植松被告が犯行に及んだ動機や偏った思想がどのような背景から形成されたものなのか、また、このような優生思想に賛同する意見が少なからず存在する現代社会の闇が浮き彫りにされることを期待していました。しかし、公判では責任能力の有無が最大の争点とされるに留まり、16回の公判を経て結審。判決後、被告弁護人が控訴したものの、3月30日植松被告が控訴を取り下げたことにより死刑判決が確定してしまいました。

この事件にかかわっては、被害者家族の希望により、警察は被害者氏名を公表せず、裁判においても1名を除いては匿名での審議という異例づくめの扱いでした。被害者家族の意向に配慮した結果がこのような対応に至った理由であるとしても、被害をうけた障害当事者がこのような対応を受けることについての差別性や家族がそのような対応を望むに至った障害者差別の現状について、もっと言及されなければならぬはずで。

また、この事件によって建て替えを余儀なくされた「やまゆり園」の再建についても、150名を超す障害者が自らの意思とは関係なく一カ所に集められて暮らす「入所施設」という形態が多く被害を生じさせたことへの反省や改善の議論も不十分なまま、「やまゆり園」を再建させることを神奈川県が一方的に決定したこと。また、この施設の指定管理を行う「かながわ共同会」がこれまでの間、やまゆり園において不適切な身体拘束（部屋を施錠して閉じ込める、長時間車椅子に拘束するなど）を長年にわたって行っていたことが明らかになり、黒岩知事が「かながわ共同会」との指定管理契約の見直しを提案したことに対して、家族会は今後も「かながわ共同会」が引き続き指定管理を行うことを望む請願を県に提出したことなど、障害当事者の人権やニーズが置き去りにされ、行政や親の都合ばかりが優先された事後処理が進んでいることについても問題にしなければなりません。

この事件は、障害者の人権はもちろんのこと、現代社会の多くの課題を投げかけているにもかかわらず、戦後最悪の大量殺人事件として司法判断のみで片づけられようとしています。

何よりも問われなければならないことは、植松被告の行った「命の選別」という愚かな行為に対して、『この国の司法制度による死刑という「命の選別」をわたしたちは容認するのか。』ということです。このような結末を受け入れることによって、私たちは植松被告の偏った思想を肯定してしまう結果に繋がるのではないのでしょうか。自身の優生思想と向き合うためにも、この事件をこのまま終わらせる訳にはいきません。死刑制度の是非を含め、今後もこの事件についての議論を深めなければなりません。

二〇〇〇年十一月十二日

第三種郵便承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行



「感染症対策について」

グループホーム 主任 米田 守

現在、新型コロナウイルス感染症が日本国内で広がっており、一部の場所では集団での発生が認められている状況です。3月からは全国すべての小中学校や高校などについても長期臨時休校とする国からの要請があり、人が集まる様なイベント事は中止となるなど日常生活にも大きな影響をおよぼしています。4月からは非常事態宣言が発令され当初、期間は5月6日までとされていましたが、政府は期間を1か月延長することを決定しました。

世界的にも感染が拡大していく中、日本政府の対応は後手後手で、この国の政治家たちは、国民の生活や生命を本気で守る気があるのか??? マスクの配布にしてもなかなか国民の手には届かず数百億円のお金を大企業に投資したにもかかわらず不良品が届いたり、給付金に関しても給料が半減した家庭に30万円の支給することを時間をかけて決定したにもかかわらず、一転して国民一人当たり10万円を支給する政策に変更したり、とにかくやる事なす事すべてが後手後手のからぶりで、しかも、そこに誠意など全く感じられません。この期におよんで利権や経済界、団体やらなどのしがらみにくらいつているばかりです。

一方では、患者数が増え人手や人工呼吸器などの医療器材が足りなくなる中、医師や看護師、医療関係者の方々は昼夜を問わず命がけで任務について下さっています。もう「感謝、感謝」でしかありません。

ちいろば会では感染症対策について「感染症対策マニュアル」があります。ちいろば園やグループホームは集団生活の場です。万一の際、誰かが感染症を発症した場合、感染拡大に備える対策が必要で、それらが講じてあります。利用者の中には基礎疾患や定時服薬、抵抗力の弱い方も多くおられます。正しい認識のもとに適切な対応が求められます。①感染症の種類 ②感染対策・感染経路の遮断・利用者、職員の健康管理、予防 ③衛生管理 ④感染症発生時の対応などが示されています。

グループホームでもコロナウイルス感染症の影響で利用者の方々が外出をキャンセルして自粛されたり、休日に楽しみにされていたテーマパークが閉園になり行けなくなったり、ストレスも少なからずたま一方です。外出するにもマスクの着用、手洗い・うがい、消毒、目に見えないウイルス感染の不安(命にかかわること)等イライラが募りメンタル的にも影響が出ることも心配されます。政府には国民の不安が日々増大していること、一層の危機感を持って、総力をあげて対応してもらいたいこと、自分たちの私利私欲のために行動するのではなく私たちが国民の生命と健康を守るために必要と思われる対策を早急におこなってもらいたいこと、・・・ただただ願うばかりです。

# しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介

このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮って紹介してもらいます。  
紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらおうという数珠つなぎのコーナーです。

よしおか ゆりこ  
吉岡由里子さんから  
うめだ さえ  
梅田佐衣さんを  
しょうかい  
紹介します



グループホーム「エンゼルハウス」  
で一緒に暮らしていて、  
リビングでテレビを一緒に観たり、  
コーヒーを飲んで過ごしています。  
梅田さんはブラックコーヒーが好き  
だけど、たまに自分で牛乳を入れて  
飲むことがあります。その日の  
気分であじかえているのかなあ？



くりやまのりこ  
栗山典子さんから  
いしはら しんや  
石原慎也さんを  
しょうかい  
紹介します



石原さんのことは幼稚園のころから知  
っています。石原さんは園芸グループ  
でブルーベリー畑の草を抜いたり、  
野菜を植えたりしていて、私のいる  
作業室から草を運んでいる姿が見え  
ます。忙しそうにせせと動いている  
姿がかっこいいです。朝、ちいろば園  
で会うといつも手をタッチしてあいさつ  
してくれるので嬉しいです。



きのしたひろのぶ  
木下洋伸さんから  
よしだ ようすけ  
吉田陽亮さんを  
しょうかい  
紹介します



吉田さんと去年いっしょに作業をし  
ていました。今年から別のグループ  
で作業していますが週に何回かは  
同じ部屋で作業をします。  
吉田くんはよく窓を開けて外を見て  
いて、僕が寒くて窓を閉めに行くと  
あまり話さない吉田くんが「ひろく  
ん、ひろくん」と名前を呼んでニコニ  
コと微笑んで来てくれます。



# えん きょう ちいろば園 今日 今のごろ...

コロナウィルスの感染拡大で外出もままならない毎日、緊急事態宣言下においても福祉サービスは、通常営業を求められている業種でもあることから、感染の恐怖におびえつつ営業を継続しています。

ちいろば園の日常も例年どおりの光景もあれば、これまでにはない、あらたな日常も（ ^ω^ ）・・・  
みなさんに直接、お目にかかることができないので、写真でちいろば園の今日、今のごろをご紹介します。



ことしも、ブルーベリー畑の横の大きな桜はきれいに咲き乱れました  
できることなら、花の下でおやつやジュースで乾杯できれば・・・？



ブルーベリーも例年どおり花をつけて  
くれました。たくさんの実がみのある  
ことを期待しています。

手洗い、消毒、マスクの着用を利用者のみなさんにもお願いしています。  
でも・・・、マスクが苦手な人も・・・問題の「アベノマスク」は福祉施設には4月上旬に届き、  
早速、みなさんに配布しましたが、「小さい、ずれる、縮んで使えない！」とやっぱり不評で使っ  
ている人は殆どいません。（写真左端が「アベノマスク」）  
それよりも手作りのかわいいマスクを着用する人たちも・・・「アベノマスク」は要なしです！！



これまで休日の外出を楽しみにしていた人たちも、  
緊急事態宣言以降はみなさん“がまん”してくれています。  
体を動かすことも少ない中、創作活動の時間には、  
体操や近くを散歩しています。





グループホームでの支援を振り返って

グループホーム職員 辰己浩規

私がグループホームに勤務するようになり一年が過ぎました。それまでちいろば園で勤務していたのでほとんどの利用者の方々の日中の様子は知っていましたが、グループホームはゆったりとした空気感があり、ちいろば園とはまた違う感じを受けました。実際の住まいの場での支援はほとんど初めて近く、しかも一人での泊り勤務なので『上手く支援できるかなあ』、『無事に朝、みんなを送り出す事ができるかなあ』と、とても緊張していたのを覚えています。覚えているというか今でも泊りの勤務の時にはその緊張感があります。

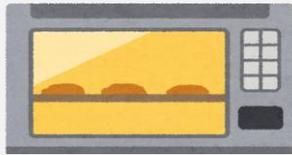
最初の頃は流れを覚える事と、どのような支援をしているのかという事を覚えるので必死でした。なので本来利用者の方がするべき事を自分がしてしまったりなど、かなりバタバタしていたと思います。ちいろば園ではその場その場で他の支援者のやり方を直接見れたり、相談する事などができましたがグループホームではタイムリーにそれをする事ができません。また、何かトラブルがあれば(内容にもよるが)その場はとりあえず自分で判断し対応しなければなりません(後で上司に報告)。他の支援者はこういつどうしているのか?自分の支援のやり方はあっているのか?毎度となく疑問や不安があります。唯一支援者が顔を合わせる時があるのですがそれは月に一回でその時には時差もあり他に話合わないといけない事に埋もれてしまい相談できずに終わってしまったりする事もありました。

また、グループホームに勤務するようになり感じた事は各ホーム週に一回の泊り勤務で、利用者の方と毎日顔を合わすことがなくその前後の事や日中の細かい様子が見えづらいという点です。基本的にはグループホームやちいろば園との連絡帳などで毎日のある程度の様子は把握する事ができます。ちいろば園の時は毎日顔を合わすので前日どんな事があったのか今日はどうだったなどある程度利用者の方の様子を把握する事ができたのですが、今は細かいところまで把握する事ができません。なので基本的な事なのですが利用者の方の表情をしっかりと観察する事、知り得た情報から本人の様子や想いを想像する事に努めています。

グループホームで一年間勤務して最も難しいと思っていることが、統一した支援ができていますか?ということです。支援者によってやり方が違うのではと感じる事があるからです。先ほども言いましたが、グループホームの支援者が全員顔を合わすのが月に一回しかありません。少ない機会ですがそこで一人ひとりが自分のおこなっている支援の事、考え、悩んでいる事をみんなと話し合いちいろば園での価値観を一致させる必要があると思います。自分の支援に対する気づきや意思疎通を図る事で統一した支援に繋がるのではと思います。どの支援者も同じ価値観でしっかり情報共有し連続した支援が出来れば利用者主体のグループホームに近づいていけるのではと思います。

先日、他の支援者から報告を受けたのですが、利用者のTさんがいつも自分で飲んでる空のペットボトルを一人で分別して捨てる事が出来たとの事。以前はペットボトルを洗って台所に置いておくだけだったので嬉しく思いました。些細な事と思われるかもしれませんが、このような小さな一歩の積み重ねが大事だと思います。

まだまだ主体的な暮らしを支援する事が出来ていないのですが利用者の方が地域社会の一員として自信をもって生活していけるよう、一つのチームとして今後も取り組んでいけたらと思います。



『共に生きる』

ちいろば園職員 胡内 まさみ

今から27年くらい前になるでしょうか、ちいさなプレハブ小屋の前の掲示板にボランティア募集の張り紙を見つけ、ちいろば園の扉を開き、“ボランティアに来させてください！”これが私とちいろば園の出会いでした。月に一度だけちいろば園に“お邪魔”して、利用者さんとクッキーを作ったり、内職仕事をしたり。皆で色々な話をしながらクッキーを焼く時間の楽しかったこと。オーブンの扉の左右にはなぜか新聞の名前がズラリ。オーブン担当のKさんが新聞に詳しく何段目という数字ではなく、新聞名で表示された棚の天板を、焼き加減よろしく入れ替えていました。彼は毎日駅で新聞を買い、通園の電車の中ですごく上手に（満員電車のサラリーマンの如く折りたたんでスマートに）読んでいます。と、教えてもらった記憶があります。当時の私は、少しの時間ちいろば園にお邪魔し、利用者さんと共に時間を過ごすだけの客人であった様に思います。

2000年、社会福祉法人となったちいろば園で、今度はパート職員として勤めさせていただくことになり、最初は給食の調理員として、厨房の中から毎日生き生きと活動する利用者さんと職員の方々を眺めていました。私も利用者さんと一緒に仕事が出来たらなあと思っていたところに、支援員として働けることになり、現在に至っています。支援員として最初の数年は、まだまだ「共に過ごす」だけの日々が多かったように思います。決められた作業を利用者さんと共にやり切るのが精一杯でした。一緒にゴールを喜ぶことはできましたが、それで良いのか…。ゴールまでの過程に於いて、利用者さんがどれだけ主体的に取り組めたのか？大切なことがなかなか実践できず、どのようにすれば主体的に取り組んでもらえるのか、今もまだ模索の日々です。思えばちいろば園で初めて利用者さんとクッキーを焼いた時に見た、オーブンに表示された新聞の名前。あれこそが日常の関わりから生まれた合理的配慮なのでした。年数を重ねるにつれ、研修、勉強会を通じ、たくさんのことを学びました。「共に過ごす」から「共に生きる」へ、私のちいろば園での意識は変わってきました。まだまだ努力が足りず、利用者さんから“わたしのこと全然わかってないやん！”と言われることもあります。利用者さんの真の思いが汲み取れるように、日々の関わりの中でしっかりと向き合い支援できるよう、自分自身を顧みることを忘れずに過ごして行きたいと思います。

なら たの ある い  
並んで楽しく歩いて行きたい

グループホーム職員 臼井 知郁枝

にゅうしょく がつ ねん むか しよくいん  
入職して8月で5年を迎えるグループホームの職員です。

とうしょ めい りようしゃ かたがた はじ おやもと はな しゅうかん きょうどうせいかつ おく りようしゃ  
当初は4名の利用者の方々のナイトケアから始まり、親元を離れて1週間の共同生活を送る利用者さんが、  
さぎょう お きたく よくあさ えん しゅっぱつ しえん  
作業を終えてグループホームへ帰宅してから翌朝ちいろば園へ出発するまでを支援させていただきます。  
にちじょうてき しよくじ にゅうよく みじたくなど かた しょうがいていど ちが なか かじ しえん  
日常的な食事や入浴、身支度等ですが、それぞれの方の障害程度が違う中で、家事をしながら支援をするこ  
とが予想外に大変でした。タイムスケジュールはあってもこちらの思うようには進行しません。職員が入れ替  
わること りようしゃ ふあん ため ねつ こうどう りゆう はじ  
わる事で利用者さんが不安になったり、試されたり、エスカレートして寝付けなかったりと、行動の理由が初め  
はぶんせき こんばい じき  
は分析できず困憊していた時期がありました。

とき どうぎようしゃ なげ つづら み なげ ないよう おぼ  
ある時インターネットに同業者の嘆きが綴られているのを見つけました。嘆きの内容はあまり覚えていま  
せんが、それに対してベテランの職員が、「おはよう！お帰り！と迎えてくれる人があるだけでどんなに有難い  
ことか。」と書き込んでおられました。私はこの時、もう神様でも降りて来たかのように「ああ、こんなに思っ  
てくれる人もあるのだ」ととても救われた気持ちになりました。

げんじつ ありがた きも にちじょう しえん な た い わたし ぜんしよくかんごじよしゅ  
しかし現実に戻ると、有難い気持ちだけでは日常の支援は成り立って行きません。私は前職看護助手とし  
て6年近い経験があり、患者さんたちが本当に好きで好きで身を粉にするように働いていました。グループ  
ホームの皆さんの事も実に愛おしく毎日夢にまで見ていた程です。愛しい方たちのためにどうすればこの  
しえん かんが こま こと なげ おりおり かんが  
支援ができるだろうかと考えます。困った事があって、何故どうして？どうすればと折々に考えていますと、  
ふとした時にヒントが得られるようです。必要は発明の母というか、必然性があります。

りようしゃ かたがた む あ とき しえんはじ いきこ いま みな  
利用者の方々と向き合う時、「さあこれから支援始めます！」と意気込むことは今ではありません。皆さんと  
せいかつ とち しんらい ふか なら ある い かん しぜん むり しえん こころがけ りようしゃ  
生活を共にして信頼を深めてずっと並んで歩いて行く感じです。自然で無理のない支援を心掛ければ利用者  
さん方も疲れやすいはず。支援者も楽に支援ができるのではないのでしょうか。もちろん手を抜いて楽をするので  
はありませぬ。お互いにとって無理なく、無駄なくエネルギーを使うことが出来れば、効率が良くなって何か楽  
しくなるのではないのでしょうか。

ひ みな きたく せんたくもの かたづ しよくじ したく あわ  
ある日グループホームに皆さんが帰宅して洗濯物を片付けたり、食事の支度など慌ただしくしていると、  
りようしゃ かたわら き よこ かべ ゆび はじ き  
利用者さんが傍に来てしきりにキッチン横の壁を指さして「うーうー」と言います。初めは「はいはい」と聞  
きながら手を動かしていたのですが、あまりに言われるのでその指の先を見ますと壁に時計が掛かっています。  
それが何？かと言いますと…6時を指していました。「たいへん」炊飯器のスイッチを入れ忘れてる！「わー教  
えてくれてありがとう。」その日からご飯を炊くのは彼女の役割になったのです。

にちじょうてき せいかつ なか りようしゃ も ちから きづか  
こんな日常的な生活の中から利用者さんの持っているキラキラした力に気付かされることで、できればずっ  
と一緒歩いて行きたいと感じます。自然な気持ちのキャッチボールが出来て楽しいです。ちょうど3年目くらい  
からでしょうか、落ち着いた雰囲気皆さんを送り出すことが出来るようになり、2020年からは、利用者の方々  
との日々の関わりや心の疎通を本当にしみじみと楽しいなあと感じる事が増えてきました。

はず わたし みな たす ささ つづ おも じかん  
恥かしながら私は皆さんに助けられ支えられてこれまで続けてこられたのだと思います。時間はかかっても  
いづくち み この しえん かんがえ  
いつか糸口が見つかり、好ましい支援ができるようになりたいと考えています。

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2020年2月1日～2020年3月31日)

浅井克哉、建石より子、奈良県伝道会婦人部、篠原範子、大江耕平、フルハウスの会、平山健次郎、王寺町福祉作業所ポエム、大阪聖和教会、汐碓直美、金泉年郁、富田久江、梶川虔二、清原亜里、高谷三郎

以上 敬称は略させていただきます

◎ちいろばだより購読料 年間500円 年6回発行 (送料込) にご協力をお願いします。

郵便振替用紙にてお願いします。

## えんげいかいさいちゅうし しろと演芸会開催中止のお知らせ



2020年6月13日(土)開催予定の「しろと演芸会」については、  
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年度の開催は中止させていただきます。

出演をご検討いただいていたみなさまには、大変申し訳ありません。

次回の「しろと演芸会」は2022年の開催予定です。

## ブルーベリー狩り体験ができます！！

夏の思い出づくりに、ぜひ！ちいろば園のブルーベリー狩りにおこしく下さい(^.^)

- 実施日時 7月/20(月)、21(火)、22(水)、23(木)、27(月)  
29(水)、30(木) 31(金)  
8月/4(火)、5(水)、7(金)



雨天時の実施は応相談

10時～11時30分 (受付及び事前説明30分+食べ放題1時間)

- 料金：500円 (中学生以上) / 400円 (3才～小学6年生) / 2才以下無料
- 持ち帰りパック別途料金 (100円 300円)

- 申込：各日 先着15名まで (要予約 当日9時まで受付可)

※実の状態によっては日程の変更や中止をお願いする場合がございます。ご了承ください。

- お問い合わせ：ちいろば園 (担当：新宮)まで 0745-72-1923

ブルーベリー狩りのあとは、涼しいカフェでごゆっくりどうぞ・・・(^.^)/

## KSKS ちいろばだより

編集人 / ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先 / 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924 ※番号が変わりました。

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F